

# WHO ファクトシート

## 環境及び職業によるがん

### Environmental and occupational cancers

ファクトシート No. 350

2011年3月

#### 重要な事実

- ・がんは世界の主要死因の一つであり、2008年には1270万人が新たに発症し、760万人が死亡した。
- ・世界ではがん全体の19%が環境によるもので（労働環境を含む）、結果、毎年130万人が死亡している。
- ・WHOはヒトに対する発がん性として107の物質、混合物及び暴露の状況を分類している。
- ・外的環境によるがん発症の原因としては、大気汚染、紫外線、室内のラドンなど発がんのリスクを高める環境的因子がある。
- ・肺がんによる死亡の10例に1例は職場におけるリスクと密接に関連している。
- ・肺がん、中皮腫、及び膀胱がんは職業によるがんの中で最も一般的なものである。

#### © World Health Organization

この文章は、日本WHO協会がWHOのメディアセンターより発信されているファクトシートのキーファクト部分についての日本語版の翻訳権をWHO事務局長より付与され、WHO健康開発総合研究センター（WHO神戸センター）の協力のもと作成したものです。日本語版に対する責任は全て日本WHO協会が負います。

ファクトシートには、訳出部分以外にも当該案件に関する基本的情報や詳細情報へのリンク先などが示されていますし、また最新事情に合わせて頻繁に見直しが行われますので、更新日時の確認を含めWHOホームページでの原文をご確認ください。

Environmental and occupational cancersファクトシート原文は [こちら](#)